



交通ルールとマナーを守るまちは、明るくてきれいなイメージが生まれる

甲賀警察署長 村井昭二さん

今津警察署・水口警察署交通課長、大津警察署交通官、草津警察署副署長、交通機動隊長、近畿管区警察局監察官などを歴任。警視。

重大事故はまだまだ増えるかもしれない

私は、警察官としての大半を交通に関わっています。その間28年になりますが、交通安全対策や啓発活動を地域の皆さんと共に取り組んできました。やるべきことをやり尽くしたという感がありますが、今の甲賀署管

内の事故の状況を見ると、重大事故はまだまだ増えるかもしれないという危機感を持っています。

管内の人身事故は11月25日時点で455件、昨年と比べれば148件も減っています。24.5%という減少率は県下で一番良い数字になっています。これも協力していただいている多くの関係機関や団体のご努力のおかげだと思っていますが、一方、死亡事故は既に11件13人になり、県内はもちろん、近畿内などの警察署より最多で

す。その原因は、速度超過、シートベルトの未着用、一旦停止や信号の無視など、基本的なルール違反が原因だと分析しています。もちろん、高齢者の方が被害に遭われる割合も全国、県下並みに多いのですが。

そのなかで、私が甲賀市内の一番の問題だと考えるのは、シートベルトです。運転席でさえ未着用の方が多くいます。ちょっと近くまでだから、という安易な考えなのかもしれません。しかし、事故は一瞬のうちに起こりま

車が正面衝突して、乗用車に乗っていた二人の若者が死亡した事故です。その内の一人は、暴走族で取り調べたことのある、やんちゃな少年でした。母親と二人暮らしで、お母さんが一人で育てた、根は心の優しい少年でした。ユニック車を運転していたのは大工さんでした。上棟式の帰りで、祝いの酒を飲んでいました。車の後ろに取り付けられたクレーン部分が揺れているのに気を取られ、センターラインを割った時に衝突しました。少しのけがですんだ大工さんは、子どもが自立して奥さんとこれからゆつくりと老後を通りかかるとい時期でしたが、刑務所へ送られることになりました。遺族となった少年の母親と、残された奥さんが事故の処理や示談に追われ、大変苦労され、つらい目に遭われました。その他にも、免許を取得したばかりで友達を乗せて単独事故を起こし、運転者を含めて3人の若者が亡くなった事故も忘れることはできません。また、賠償金が工面できず、自らの命を絶ったという出来事もありました。

重大な事故は、加害者や被害者はもちろん、家族までも巻き込んで、これまでの生活を一気に奈落の底まで突き落とすことがあります。そして、時間が経っても当事者や遺族の心の傷は癒えることはありません。命が亡くなる現

場へ駆け付けるのはとてもつらく、悲惨な事故を減らすために何かやらなくては、という思いをいつでも強く持っています。

事故の大小は紙ひとえ

管内では毎年、平均して人身事故が約700件、物損事故が約6千件発生しています。普通、交通事故は加害者と被害者がありますので、単純に計算すれば2倍の1万4千人位が交通事故の当事者となります。これが10年積み重なると14万人になり、甲賀市湖南市の人口に匹敵します。つまり、数字上、10年に一度は管内の全ての市民が事故の当事者になる、ということになります。運転している以上、事故は起こりますが、事故の大きい小さいは、紙ひとえです。運が悪ければ、自分や相手の命を絶ってしまいます。後には悲しみや苦しみが残るだけです。交通事故の実態や悲惨さを認識していれば、自分にも、子どもにも、孫にもシートベルトをつけるはずですし、スピードも控えるはずですし、小さな事故や違反をしても、経験として生かすことが大切です。なぜ、事

故や違反につながる運転をしてしまったのか、原因の原因を探るのです。イライラ運転の元には出がけにいやなことがあったのかもしれないし、仕事がつまづいかなかったのかもしれない。そこには個人の問題のほかに、家族や会社にも事故につながる要因が潜んでいるのかもしれないのです。事故の経験の有無によらず、一度、身の回りを振り返ってみることも事故防止につながると思います。携帯電話もその一つです。運転中かもしれない人に電話をかけるときには、ワン切りで折り返しの連絡を待つということも小さな心遣いになります。自動車で出かける人に「気をつけて」の一言でも違ってくると思います。

この地域は車が走りやすい環境です。道路も整備され、都会のような渋滞もありませんので、急いだら急いだ分だけ早く目的地へ着けるとい錯誤覚を起こし、信号の変わり目にスピードを上げて交差点を通過したり、無理な追い越しをしたりする行為につながっているのではないかと思います。

一件でも交通事故を減らしたい

警察では今、歩行者妨害行為の取り締まりに力を入れようと考えています。例えば、横断歩道です。横断歩道に人がいるのに止まらないのは、重大で悪質な違反行為です。車優先と勘違いしているドライバーは、横断歩道の意味が分かっていないということだと思います。特に高齢者が被害に遭う事故が増えています。高齢者に気をつけてもらわなければならぬところもありますが、ドライバー側が「お年寄りを守ってあげる」という気持ちを持ってもらわなければ高齢者事故は減りません。甲賀署で抱える事案は多種多様です。そのなかでも交通死亡事故は大きな課題です。一件でも悲惨な交通事故を減らしたいと心から思っています。そして、署員も、「あなたや家族を守るため」という信念をもって取り締まりをしています。甲賀市でも、セーフコミュニティの取り組みの中で、市民参加による安全安心なまちづくりへの取り組みが進められています。みんなが交通ルールとマナーを守るまちは、住みやすい、明るくてきれいなまちのイメージが生まれます。最終的には一人ひとりの意識の問題になるのかもしれませんが、家族から、地域から、職場から、交通安全のためにできることから広げていってほしいと願っています。